

わたしたち、社会福祉法人玉柏会は、地域社会の中で「ともに生きる」ことによる「しあわせ」を目指していきます。



# 玉柏会



常葉大学・実習生さんと『あずまや』でのひととき  
～女性Bグループ～

令和2年9月29日 撮影

## 特集：専門的支援の取り組み ～ご利用者のよりよい生活のために～

### 目次

|                             |   |
|-----------------------------|---|
| 玉柏会 理事長より「コロナ禍を生き抜く」        | 2 |
| 『新型コロナ・予防対策』法人・各事業所         | 3 |
| 特集1：摂食・嚥下 / 特集2：ペアレントトレーニング | 4 |
| 特集3：「強度行動障害」 / 特集4：口腔ケア     | 5 |
| 玉柏会通信「納涼大会」 / 自慢の利用者・宍原荘    | 6 |
| 玉柏会事業所だより「みすず事業所」・「第二かしわ寮」  | 7 |
| 「あずまや」完成 / 新入職員紹介           | 8 |

 社会福祉法人 玉柏会

本部 宍原荘 みすず かりん  
かしわ寮・すずらん・オークリーブス

〒424-0301

静岡県静岡市清水区宍原362番地

☎054-394-0311 FAX 054-394-0312



## 「コロナ禍を生き抜く」

私達社会福祉法人は、一部の民間法人やNPO団体と違い、福祉事業を永続させていかなければなりません。それが社会的責務です。

感染者数や死亡数が縮小されてきたとは言え、コロナ禍が去った訳ではありません。抜本的な治療薬や予防薬が発明されるまでは気を許すことは出来ません。

コロナ禍による行動制限で経済活動が後退しています。加えて持続化給付金等の緊急財政支出が急増しています。

いずれ財政再建をしなければなりません。古今東西の歴史を振り返ってみると、そのしわ寄せは社会的に弱い立場の人々に集中してきました。

コロナ禍で経済格差が急速に拡大している状況下、限られた政府予算の中で社会福祉関連予算の動向を従来以上に厳重に注視していく必要があります。まさに政権の経世済民度を問うていかなければなりません。

一方で社会福祉法人の逞しい自立への動きが問われています。自分達でできる事を徹底的にやり抜く姿勢が必要だと思えます。

①業務改革 ②ITや介護機器活用 ③専門性のより一層の向上が鍵を握ります。これらは働き方改革にも繋がります。

業務改革の大前提はご利用者への支援活動の質を変えないで、排除・統合・入れ替え・簡素化を切り口として惰性活動を総検証します。

ソフトとしてのIT活用では事務作業の効率化やデータ・記録の一元化を図り、ハードでは種々の介護機器を積極的に導入して力仕事の軽減を目指します。

今年4月にスタートした放課後等デイサービス等の新しい事業分野や従来よりも強度を増した障害分野に対応すべく専門的知識やスキルを向上させていきます。

何より大切なのは、こういう時こそ「理解し合い、支え合い、互いの人格と個性を尊重し合う」という共生（ともいき）理念の原点に立ちかえる事が必要だと思えます。

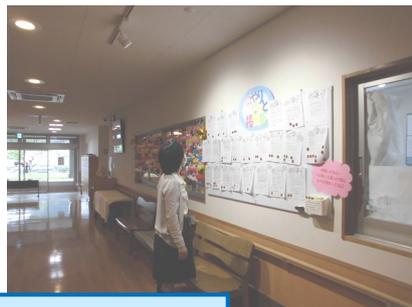
日本・アメリカ・中国・ロシアでは安易で短絡的な敵味方のレッテル貼りが横行しています。尚かつコロナ禍で人と人との接触機会が激減している中で、コロナ感染者への『自粛警察』的のヘイトスピーチも拡大していますが、今こそ逆に意識して他人の長所や美点を見つけ出す「ニヤリほっと」運動を益々促進して、**お互い様**の心を大切にしていきたいと思えます。



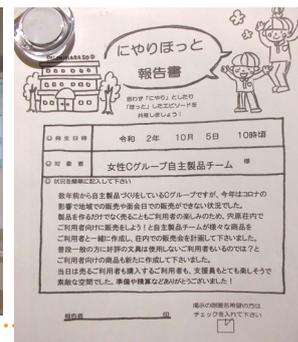
社会福祉法人王柏会  
理事長

海野和雄

以上



掲示版を活用しています



# 【新型コロナ・予防対策】

## 『感染拡大時の法人の運営について』

当法人で、新型コロナウイルスの感染防止対応を開始してから、はや9カ月が経過していますが、感染が終息に向かうまでには、いましばらくの期間を要すると思います。

5月中旬以降は、感染防止のために加えていた面会や帰宅、外出等の制限を徐々に緩和してまいりましたが、職員のご利用者に対する支援は、感染防止に気を配りながらのものであるため、様々な制限の中で行わざるを得ず、「ご利用者の気持ちや保護者の皆様のご要望等に十分応えられていないのではないか。」というもどかしさも感じながらの日々であったと思います。

しかし、そのような環境の中でも、様々な検討と工夫を重ねながら、できる限りにおいて、ご利用者が安全で楽しく過ごせるように対応してくれている職員に対して感謝したいと思います。

今回の感染は、それぞれの国や社会の、特に脆弱な部分を直撃しており、それにより多大な被害や負の影響をもたらしていますが、福祉においても、各分野において、厳しい対応を余儀なくされています。現場の崩壊危機や職員の疲弊、また休業やサービスの一時停止を余儀なくされるケース、収入の減少等の問題が各地で発生していますが、同時に、福祉施設は社会にとって必要不可欠で重要な存在であることを改めて感じています。今回のような感染拡大も含めた災害発生時に、適切な備えと各関係先との連携等により、施設を運営し続け、「福祉サービスを提供し続けること」が私たちの役割であることを再度認識しています。

(常務理事 濱崎宣雄)

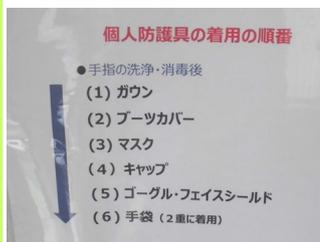
## 『各事業所での 新型コロナ・予防対策』

### 【穴原荘】

穴原荘では、新型コロナウイルス感染対策として、緊急事態宣言の期間においては短期入所の受入れ中止やご利用者の外出・外泊の禁止や面会日などの年間行事への参加の中止など、厳戒態勢を引いてまいりました。そのため、施設内での活動を充実しご利用者のストレスマネジメントを行ってきました。また、面会などが禁止となった為に、保護者の方にご利用者様の元気な姿を手紙と写真で報告するなど、保護者様への対応も行いました。また、ブログの更新も多く行い、少しでも穴原荘の活動が外部の人の理解が得られるように、工夫をいたしました。

5月中旬以降、規制の緩和を行ってきました。保護者の面会や外出活動など、地域に出での対応ができるように規制緩和を行い、徐々に“with コロナ”を念頭にどうやって普通の生活を取り戻すのかをアイデアを絞って活動してきました。

また、ご利用者がもし感染した場合において、最小限の被害にとどまるように、新型コロナウイルス感染者への対応として、地域交流ホームを隔離施設として想定し「新型コロナウイルス感染症対策室」を設け、ゾーニングを行い、感染者が治療に専念できる環境を整えました。



### 【みすず】

通所事業所のみすずでは、事業所内の3密を避けるために、緊急事態宣言中は通所ご利用者の制限を行い、自宅で事業所内の作業が行えるように、保護者様との連絡調整を行い、事業を継続してきました。また、緊急事態宣言解除後も、公共交通機関で来ているご利用者様については、事業所の送迎を増やし、ご利用者の感染対策も行っています

(総務部次長 小長谷英春)

## 新着情報 事業所のホットな話

## 特集1：摂食嚥下障害の取り組み

今年度も昨年度に引き続き明海大学の岡田教授にご指導いただき、摂食・嚥下への取り組みを進めています。今年度は昨年静岡市の取り組み事例として作成した「食べ方チェックリスト」の活用と、それに基に統一した支援のために作成したフローチャートの活用をしています。「食べ方チェックリスト」では利用者様の摂食・嚥下における問題点の発見、フローチャートではその問題点の解決方法を見つけ出せるようになっていました。これらを利用する事によって問題の発見、解決方法の検討が容易になり、支援計画に記載する事により支援員間での問題点の明確化と共有を図ることを目指しています。

また、全ての職員が摂食・嚥下に対し視点から支援が行える事を目指し、定期的に勉強会を行っています。今回は新規採用職員向けの勉強会を8月25日に岡田教授をお招きして行いました。

今後も穴原荘の全職員が「食べる」と言う事の意味や意義を重視した、より良い支援が行えるようにしていきたいと考えています。  
(看護師 山本和子)

### お食事の様子



### 10月のピックアップメニュー



## 新着情報

### 事業所のホットな話

## 特集2：ペアレントトレーニング

令和2年度より、社会福祉法人玉柏会は、放課後等デイサービス「オークリーブス」の運営を清水区南岡町で開始致しました。放課後等デイサービス(以下、「放デイ」)では、小学生から高校生までの障害のある方々に放課後や長期休みの日中にサービスを提供しています。しかし、通常の日課では、学校と自宅にいる時間がほとんどで、放デイで過ごす時間は、わずかです。

また、休日と夜間は、自宅で過ごす時間が長く、自宅での過ごし方に悩むご家族の声をたくさんお聞きしています。そこでオークリーブスでは、地域で障害のあるお子様の子育てに悩んでいらっしゃるご家族を対象にペアレントトレーニングの開催を企画致しました。当初は、夏前から開催の予定でしたが、新型コロナウイルス感染拡大の影響で、この9月4日より隔週金曜日の10回コースで開始しております。

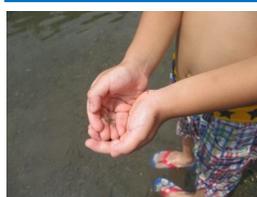
講師は、静岡県立こども病院の小林繁一医師と専門の保育士2名によるチームにお願いし、市内在住の障害をお持ちのお子様のご保護者様6名が参加されています。内容は、障害理解の為の講義とロールプレイを用いた体験学習で「子供を変える」方法・技術を学ぶのではなく、「子供が変わる」のを支える為の親としての役割・接し方を学ぶ事が中心となっています。

(管理者 遠藤智一)

### オークリーブス 活動



### 公園や川で、水の生き物と遊びました



### 屋内では、おやつ作り

平成28年、強度行動障害をお持ちの方が入所されました。当時の私達としては、本当にいままでにないタイプの方で、どのようなコミュニケーションにも拒否を示し、常に興奮し次の場面への切り替えが一切できない状態をまざまざと体感し、いままでの支援はまるで通用しない、危機感を感じました。

そこで平成28年度より水野敦之先生にコンサルタントをお願いしました。水野先生には自閉症支援に関する大事な視点を学び、障害特性を理解すること、まずはアセスメントからはじめること、そして支援者全員が同じ視点で支援していく「フレームワーク」を学びました。自閉症支援は机上で学ぶものではなく、正しい知識をつけて実践で学んでいくという必要性を、支援を続けながらとても痛感しています。

そして現在宍原荘では、自閉症研修チームが主体となり、スタッフ全員で協議をしながら日々支援に取り組んでいます。結果はすぐにできるものではなく、気づいた頃には生活に彩りがあらわれてきたといった感じで、本当にスモールステップです。とても時間がかかりますが、自立に向けてこれからも支援し続けます。

(支援係長 牧田孝行)

活動スペース



ランチバイキング

口腔ケアは、口の中だけでなく体全体の健康を維持するために必要なケアです。虫歯や歯槽膿漏で口腔機能が低下すると、噛んで味わう、飲み込むといった動作をスムーズに行えなくなるため、十分な栄養を摂取できなくなります。栄養不足状態が続くと、免疫力の低下や運動機能の低下、認知症の進行、さらなる摂食障害につながる可能性があります。そして、口腔ケアは誤嚥性肺炎の予防にもなります。誤嚥性肺炎は命にかかわることもある怖い病気なので、しっかり予防することが重要です。

このようなことから、毎週(月)各フロアーへ行き、歯ブラシやフロス、歯間ブラシなどを使って、利用者様の口腔内を清潔に保てるよう専門的なケアと歯磨き介助のアドバイスをを行っています。そして、ケアをしながら口腔内の健康状態もチェックしています。歯の噛み合わせや虫歯の有無、歯肉の状態、舌、粘膜の色や状態、口臭などを確認し、トラブルの早期発見につながるようにしています。何か問題や異常が見られるようであれば、すみやかに歯科受診へつなげるよう対応しています。

心身の健康につながる口腔ケア、加齢とともに噛む力や飲み込む力が衰えるのは仕方がないことですが、歯や口腔環境は、正しいケアでいつまでも健康に保つことができます。口の中を触られることを苦手とするご利用者もいますが、無理強いするのではなく段階を踏んで少しずつ口腔ケアに慣れてもらうようにしています。

ご利用者の健康維持に、これからも努めていきたいと思えます。

(歯科衛生士 松風雅子)



横になって、リラックス～



お口、スッキリ☆





# — 玉柏会通信 —



## 第45回 玉柏会 納涼大会

R2.7.18(土)

『今年は、初の試みでした』

第45回納涼大会は、新型コロナウイルスの影響により保護者様と外部や地域の皆様を交えることが出来ない、という今までとは全く異なる状況下で行われました。規模をどうしても縮小せざるを得ませんでしたが、形が変わって新鮮だったということもあり、ご利用者の皆さんは十分に楽しまれていました。ご利用者の高齢化が進む中、身体や特性に合った催しにするにはちょうどいい機会になりました。規模は小さくなくても楽しめる密度の高い新たな納涼大会にしていきたいです。  
(納涼祭担当: 支援員 福留佑季)



射 的



ヨーヨー釣り



狙った獲物は逃しません!



おみこし



金魚すくい まて〜!

宍原荘

自慢の利用者



### 石垣康夫様を紹介します

宍原荘が開荘し、まもなく入所されましたので、在籍年数の多いご利用者の一人です。当初は、農耕班に所属され、麦わら帽子に長靴姿で、農作業に取り組まれておりました。

現在のご高齢になり、グループを移動されましたが、周りのご利用者を気遣って頂ける、頼りになるお兄さんのような存在です。

石垣様の笑顔に職員一同、癒されております。



笑顔が優しい 石垣様

## みすず事業所（就労継続支援B型事業所）

### <職場生活訓練>

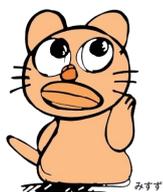
毎年、「日常生活訓練」として、職場でのルールや外出による社会性、時には日常の起床から就寝の中において大切なことを、宿泊を通して行ってきましたが、今回は「自分たちが働く場所」を基本とした事業所内訓練「職場生活訓練」を実施しました。しかも4月、6月と二回の実施でした。特に一日のスタートとしての朝礼では、進行役の号令係の練習や身体をほぐすためのラジオ体操は、何回やり直しをしたかわからない程、皆でがんばりました。勿論、職場内での社会性や感染予防に対する訓練も充実できました。

（みすず管理者 鈴木利往）



職場での感染対策研修のようす

### すずちゃんのひとこと



今年度、まだ一度も行っていないこと…「青空市なのだ！」コロナ禍により出来ない悲しさ、招き猫の振りもできない吾輩の悲しさ…しかし何やら販売工夫も進めているようだ！「注文販売！？」まだお試しでの活動らしいが…すでに2回実施！？で、次は少し範囲を広げるらしい様な、青空市で神様お客様を招くことが出来ない吾輩は…注文販売で紙様、注文用紙様を招こうかな！

（すず）



### 第二かしわ寮 ～やさい新聞を作りました～

第二かしわ寮の大室春樹さんと渡辺智司さんは、一年を通して野菜作りを楽しんでいます。お二人が野菜作りで気を付けていることは「肥料と水と消毒」と「毎日しっかり野菜を観察して美味しい野菜ができるようにすること」、そして野菜作りで嬉しいことは、「食べられる美味しい実ができること！」と笑顔でお話してくれました。

8月は「スイカゼリー」を作って寮の皆さんに食べさせてくれました。お二人が野菜作りを頑張っている姿を「野菜新聞」に掲載してかしわ寮に飾っています。

（第二かしわ寮 世話人 川津明子）



渡辺さんと大室さん  
スイカゼリー、美味しくできました♪

# 『あずまや』完成しました!

～宍原荘 芝生グラウンド内～

訓練棟とグラウンドの間にあった畑を改修し、この度、『あずまや』が完成致しました。元々その場所には、作物の様子がよくわかるという目的で、畑が作られていました。就労グループがお花を飾ったり、苗を植えたり、秋にはコスモスが綺麗に咲いて、面会日など行事の際、みんなを喜ばせてくれていました。

ただ、みんなのためにどんなものがあたら良いのか?とアンケートを取ったところ、休憩場所があればいい、歩行時の発着所、音楽などが流せる場所、トイレがある、プールにして泳ぐなど色々な意見が出てきました。

検討した結果、屋根があって休憩できる場所を作れば、みんなが集まれるのではないかということになり、あずまやを設置することになりました。

暑い時には日よけを伸ばして涼をとり、寒い時には周りに横幕を張って以前より暖かく利用できそうです。音楽も使えるよう電源をとり、災害時にも活躍できそうな形になっています。

まずは『あずまや』が楽しめる場所になっていただけるよう、企画して、みんなで利用していきます。

(支援課長 齋藤雅志)



あずまやでランチ

R2.7.27 入社



三浦 哲(宍原荘)  
みうら てつ

未経験からのスタートのため、人一倍努力が必要だと思いますが、一日も早くご利用者のお役に立てるよう精進致します。

R2.8.12 入社



角田 文子(宍原荘)  
かくだ あやか

ご利用者の特性、個性を理解し、一人一人の話に耳を傾け、日々笑顔で充実した生活が送れる支援を心がけていきたいと思っています。

R2.8.20 入社



寺田 詩織(宍原荘)  
てらだ しおり

受容し、最終的に自立に繋がる支援とは何か、先輩やご利用者から思案します。ご利用者と職員の笑顔がより増えるよう、元気に努めます。



前田 千寿子(宍原荘)  
まえだ ちずこ

〇〇才の私ですが、今までの経験が宍原荘で、少しでもお役に立てる様に、初めての「障害」という分野を勉強していきたいと思っています。

**注目!**

新人職員のご紹介  
です



ご相談は、下記の電話へどうぞ!

電話  
**054-340-3565**  
FAX  
**054-340-3566**  
E-Mail  
endo@tamagashikai.com

お悩み・相談なんでも  
受け付けます

入所 ご利用者

《宍原荘・入所》  
9月 森さん

【この記事に関するご意見やお問い合わせは】

電話:054-394-0311  
FAX:054-394-0312  
E-mail sisiharaso@po4.across.or.jp  
QRコード



玉柏会では皆様のお声をお待ちしております。

すずらん

